吉備中央町

議会だより

第46号
平成29年1月20日発行
発行／岡山県吉備中央町議会
〒716-1192
岡山県加賀郡吉備中央町
豊野1-2
TEL.0866-54-2081
FAX.0866-54-1366
編集／議会広報編集委員会

TOPICS

12月定例会……3
７議員が町政を問う……5
委員会の動き……13

よき年でありますように

年頭あいさつ2017

議長　難波　武志

新年明けましておめでとうございます。

皆さまにはご家族おそろいで新年をお迎えのこととと心よりお慶び申し上げます。

平素より議会に対しまして格別のご理解ご協力を賜っておりますことに感謝申し上げます。

昨年9月の選挙で12人の議員が新たに選出されました。この度より議員定数が16名から4名減ということで議員一人ひとりの責任は一層大きくなりますが、議員全員が力を合わせ町民の代弁者として行政執行のチェック機関としてその期待に応えていかなければなりません。複数の若手議員の選出で平均年齢も若返り、若い世代との距離感も縮まり子育て世代や中堅層の声も繁栄できると期待しています。

さて、昨年を振り返ってみると災害の多い年でありました。中でも熊本や鳥取中部地震を始め、全国各地で大変多くの地震が発生し、多くの被害を出すなど自然災害の恐ろしさと共に日頃の準備の必要性を再認識する年となりました。

明るい話題ではリオデジャネイロオリンピックでの日本選手のメダルラッシュで日本全国が元気になった年でもありました。

町においては人口減少や少子高齢化対策など課題は山積しておりますが、町民の方々のご協力で新しい事業にも取り組むことができ、明るく元気な町づくりを進めることができたと確信しています。

今年は西年、町民皆さまが大きく羽ばたき、多くの幸せをとりこむことができますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

副議長　黒田　員米

皆さまには、ご家族お揃いで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、世界的にも国内的にも大きく変革する中、地方自治体を取り巻く社会状況は依然として厳しく、経済状況も含め時代の先行きに一抹の不安を感じる一年でありました。

また、国内においては熊本地震を始めとする各種の自然災害、新潟における大火災などの人的災害なども数多く発生し、その将来への不安をより一層大きくしたのではないでしょうか。

そして、今まさに、日本は世界に類を見ない速度で、将来不安の大きな要因である人口減少、超高齢化社会に向かって進んでおり、国も地方も大きく変革する中で吉備中央町においても人口減少、高齢者対策、教育と子育て、産業や建設の推進など直面する課題が数多く山積しております。

そのような中、吉備中央町議会も昨年の改選から議員定数を12人とし、本年は新しい議会として本格的に始動する年となります。

議会といたしましても、これらの山積する課題に積極的に立ち向かいながら町民の皆さまとともに、住みよいまちづくりのために全力をつくしてまいりますので、今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

結びに、新しい年が町民皆さまにとって、実り多き年となりますことを心より祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般会計2億5000万円を増額
総額　97億4700万円
ふるさと納税は5億5400万円に

12月定例会

12月議会は12月5日開会。執行部からは一般会計予算の補正、8つの特別会計予算の補正、条例改正4件、計画変更1件、指定管理2件、同意1件の17議案。請願、陳情各1件。議員発議4件の計23議案が上程され審議。全ての議案が全員一致で議決され、16日閉会した。

一般会計予算の補正

一般会計予算の補正は、協働のまちづくり寄付金（ふるさと納税）1億7000万円、ピオーネ園整備など農林業補助金3100万円、個人町民税2400万円など歳入2億5000万円が増額され、総額97億4700万円となった。なお、ふるさと納税の寄付総額は5億5400万円。

歳出の主なものは、ふるさと米買い取り1億1900万の追加、ピオーネ園整備関連に4500万円。

美味しいお米を全国に

問 庁用自動車購入費67万5000円減額の理由。減額は良いが当初計画が甘いのではないか。

答 普通車1台購入。入札残であり、適切と思っている。

特別会計予算の補正

特別会計予算の補正額は次のとおり。

◎「国民健康保険」
4200万円を追加。
17億5700万円に。

◎「介護保険」
16万4000円を減額。
21億2600万円に。

◎「後期高齢者医療」
56万7000円を追加。
1億7700万円に。

◎「診療所」
額の変更はない。
予備費で器具を購入。
2900万円。

◎「簡易水道」
44万円を追加。
4億3000万円に。

◎「下水道」
380万円を追加。
1億円に。

◎「農業集落排水事業」
33万円を追加。
1億3900万円に。

◎「上水道」
640万円を追加。
3億3000万円に。

公の施設の管理者を指定

◎火葬場
29年3月31日期限を迎える火葬場の指定管理者を公募し、引き続き吉備中央会館N・JVを指定した。期間は5年間。

◎地域特産物総合交流促進施設
29年3月31日期限を迎える「道の駅かよう」隣接の直売所の指定管理者を公募し、引き続き吉備高原サツキ育英会を指定した。期間は5年間。

特別委員会を設置

町の活性化と雇用の拡大を図るため、前期に引き続き「企業誘致促進特別委員会」を設置。委員は全議員。委員長に石井壽富、副委員長に河原正一を互選。

賀陽財産区委員選任に同意

28年12月21日任期満了となる委員8人の選任に同意した。石田吉弘氏（再）、石井保直氏（再）、難波光明氏（再）、藤井尊氏（新）、山本武士氏（再）、坂井繁氏（再）、植本勇氏（新）。任期は32年12月21日の4年間。

入湯税　日帰り客など免税対象に
上竹荘保育園定数30人から45人に

おもな条例改正

◎職員の給与に関する条例

一般行政職、医療職、技能職の給与を平均で0.17%アップする。

問 各職の平均給与はいくらになるのか。また総額はいくらか。

答 一般行政職は27万7342円で811円のアップ。医療職は23万1113円で1563円のアップ。技能職は23万1445円で995円のアップ。総額は14億5613万円で、共済組合費の大幅減があり差し引き872万円の減となった。

◎入湯税一部免除

入湯税150円を、①小学生以下の者②教育の目的をもって教職員に引率された中学校生徒または高等学校生徒③日帰りで入湯する者は免除する規定を設ける。

問 プラス面とマイナス面がある。マイナスは税収減だがどの程度か。

答 27年度決算ベースで年間34万円程度減となる。

問 プラスは入浴料金の値下げが期待され利用者の増加が見込まれる点と、事業者の事務負担軽減であるが、町外へも積極的に発信し観光振興に繋げることが大切。

答 町のホームページなどで積極的に発信する。また事業者には、文書で趣旨を周知する。

◎保育所定員を増

入園希望者の増が予想され、上竹荘保育園の定員を30人から45人に増やす。

問 定員が増えるのは良いことだが、施設の条件は整っているのか。3歳未満児が多くなった場合、保育士の確保はできるのか。

お友達増えるといいな

答 上竹荘保育園は当初から45人定員で施設上問題はない。保育士の配置は年齢別の入園状況を予測して問題ないと考えているが、想定外の場合入園できないこともある。

住宅建設計画の変更

「過疎地域自立促進計画」の、公営住宅2棟20戸を7棟24戸に変更し、南部住区集合団地用地に建設。

問 当初単身者専用ではなかったのか。単身者用はどうなるのか。

答 以前は建設場所が決まっていなかった。今回県から購入し造成する。子育て支援用4棟10戸、単身用3棟14戸を計画。

請願、陳情

◎地域の実情に応じた医療提供体制の確保を求める請願

採択（全員賛成）

◎安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める陳情

採択（全員賛成）

国へもの申す

●地域の実情に応じた医療提供体制の確保を求める意見書（全員賛成）

国は地域の実情に応じた病床数になるよう現在の推定方式の見直しを求める。

●安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める意見書（全員賛成）

医療・介護関係職員の労働環境の改善を求める。

●地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書（全員賛成）

地方議会議員のなり手がいなくなっている。人材確保の観点から、廃止された議員年金にかわり厚生年金制度加入への法整備を求める。

ここが聞きたい
議員が一般質問

一般質問とは、町の政治・行政全般にわたり町長の方針や見解、説明を求めるものです。議員は質問により自己の意見を表明できます。

「議会だより」では１議員30分の質問を、原則として議員自身が1000字程度に要約したものを掲載しています。全体をお読みになりたい方には、議会事務局で議事録を公開しています。

頁	質問議員	質　問　要　旨
P 6	西山　宗弘	1．非常時の危機管理態勢について 2．有害鳥獣駆除方法について 3．町有財産等の処分について 4．備品購入等について
P 7	森下　誠一	1．全国学力テストについて 2．いじめ不登校について 3．高齢者ドライバーの重大事故について
P 8	黒田　員米	1．交通弱者対策について 2．介護保険の認定業務について
P 9	丸山　節夫	1．農地荒廃対策と農機具購入助成について 2．県道及び町道の整備について 3．町の産業・観光振興について
P10	山崎　　誠	1．子育て応援について 2．希少植物、生物の保護について
P11	日名　義人	1．高齢者の安心・安全確保と生活支援について 2．水道会計の一本化に続く老朽化対策について 3．地域農業の活性化について
P12	熱田　康治	1．介護保険料について 2．水道料金について

（質問の順番はくじ引きによる）

一般質問の概要は議会事務局、加茂川町舎、各支所、もしくは町ホームページでご覧いただけます。

議会は予約なしでいつでも傍聴できます。お気軽においでください。

問 非常時の危機管理態勢は

答 常に緊張感を持って対応

西山　宗弘

問 災害発生時に町長、副町長が不在の場合の対応はどのようにするのか。

答 山本町長 危機管理は緊急事態の発生を予知予防し、緊急事態が発生した場合は速やかに対応し被害を最小限にとどめることが必要である。

基本的には平時から町長か副町長が町内に留まるようにしている。二人とも不在の場合は、順次教育長等次席者に指示し、気象状況も勘案しながら出張するよう心がけている。何もなくても電話等で連絡を密にしている。今後とも危機管理に怠ることなく緊張感を持って業務にあたっていく。

鳥獣駆除方法は

問 近年、猟友会を始め町のいろいろな対策に応じて、有害鳥獣の駆除が行なわれているが、残念なことにサルの駆除については成果があがっていない。サルの駆除対策として用いている連発式花火の使用は許可がいるが、被害を受けている農家の状況によって町独自のよい対策はないのか。

答 町長 有害鳥獣の被害は年々深刻な状況が続いている。特にサルへの急な対応として花火を提供しているが、講習修了者のみとなっている。被害を受けている地域をよく把握し、臨機応変な対応が必要であるが、安全面も考慮しなければならない。今後、県等とも協議し、法律に触れない範囲で少しでも被害の軽減に努めていきたい。

町有財産等の処分は

問 近年、車両の売却入札が行われているが、中には転売目的とも思われるような結果になっていないか。町内での活用を目的とした制限等をつけてはどうか。

次の場所でも有効活用を

答 町長 不要になった物品等の処分は可能な限り入札によることとし、収入の確保に努めている。入札については町民を優先すべきと考えている。転売目的入札についての規定はしていない。

備品購入の方法は

問 備品購入は各施設によって必要に応じて購入しているが担当課によって方法がばらばらであると感じられる。大事なのは少しでも少ない予算でよりよい物を購入し活用することが本来の目的であると思う。業者任せにしないで町の財産として活用できる部分に重きをもって対応してほしいが、現状や内容を把握しているのか。

答 津島教育長 教育委員会所管の施設の備品購入は、当初予算の段階で、業者から参考見積もりを取り、教育委員会で査定を行う。必要なものを精査して予算要求をしている。

また、業者の言い分だけをうのみにすることはない。

このほかにも「竹荘中学校の跡地利用計画」「バス運行状況」「公共施設処分後の対応」の質問も行なった。

問 全国学力テストの対応は

答 岡山型スタンダードで対応

森下　誠一

問 2016年度の全国学力テストの県順位は小学6年生が25位、中学3年生が41位と県目標の10位には程遠い。町の小学6年生の国語Bは評価できるが、他の3教科は全国平均、県平均より幾分悪い。加賀中学3年生のテストの成績は問題ないか。

答 津島教育長 状況的にはもう少し頑張ってくれたらと思う。本町の生徒の課題は、自分の考えを書いたり表現したりする力が不足しているが、全国平均との差が縮小していることは成果と思われる。取り組みは日々の授業の改善を岡山型学習指導スタンダードで、児童生徒に分りやすい学習や、基礎、基本の定着を大切にした授業を実践している。また、テストの結果を受け学力向上改善プランを作成して全職員で取り組み、一人ひとりに細かい指導をしている。

授業改善の方向や家庭学習の出し方など、町内の学校が同じ歩調で学力向上に向けて取り組む。

	県平均	加賀中
国語A	74.7	74.7
国語B	63.8	67.6
数学A	60.3	54.8
数学B	41.4	36.4

国語は良いが数学が悪い。数学の学力向上に努めていきたい。

いじめ不登校

問 いじめや不登校の問題は学力にも大きく影響し、大きな人身問題に発展している。

いじめ防止対策推進法ができて3年経過した。全国でいじめが原因の自殺が無くならない。町の状況が心配されるが、小中学校のいじめと不登校の状況はどうか。

答 教育長 いじめは大きな教育課題と考えている。28年度の今日までの認知件数は小学校で2件。すでに解決している。中学校は0件。いじめはいつでも何処でも起こりうるという認識のもとに、未然防止と早期発見、初期対応の重要性を指示し、いじめは教育課題の柱の一つと捉え推進している。

高齢者ドライバー

問 高齢者ドライバーによる悲惨な重大事故が多発している。町としての考えを聞きたい。高齢者や運転に自信のない方に自主返納を呼びかけているが、中山間地域の我が町では日々の生活に車は欠かせない。

現在、高齢者が利用できる「ふれあいタクシー運行助成事業」があるが、助成率を上げて自主返納しやすい環境にしたらどうか。

現在の年金暮らしの高齢者は、ささやかな年金からあれもこれも天引きされ、厳しい生活環境で日々をしのいでいる。

子育て支援は最も重要であるが、高齢者の方にも少し目を向けるべき。

答 山本町長 町では65歳以上の方の日常生活における交通手段の確保を図るため、「ふれあいタクシー運行助成事業」を行っている。福祉課に登録していただき、町内料金の1／3を助成している。平成27年度登録者は1234人で、利用件数4359件で、320万3740円を助成している。

運転免許返納の増加が見込まれ、既存の交通体系を見直し、町民の移動手段を確保することは喫緊の課題で、持続可能な利便性の高い公共交通体系の再構築を検討したい。

ふれあいタクシーの助成率についても再度見直しも含め検討も考えられる。

いつまでも乗りたい

問 交通弱者対策は

答 新たな交通体系を構築

黒田　員米

問 行政は、現在の交通弱者問題をどのように認識をしているか。

答 山本町長 町にとって交通問題は大変重要な問題と考える。

町内には鉄道も無く、一部バス路線の廃止などにより、残った数少ない路線バスやタクシー、自家用車などの利用に限られ大変不便となっている。

町としては過疎バスへの補助や高校生の通学費補助、タクシー助成制度など、利用者の経済的負担軽減と公共交通の利用促進に努めてきた。

しかし、吉備中央町は広い町域に集落が点在しており、買い物や通院など大変不便な状況にある。

今後は、新たな公共交通体制の構築が必要と考えている。

問 デマンドタクシーの将来構想は。

答 藤森総務課長 当面は現状で運行をしながら、将来は町全体の地域交通体制を構築する。

問 福祉タクシーの透析専門部門を検討しては。

答 大木福祉課長 運営は社協に委託しており、町内は片道500円、町外は1km当たり40円の助成。透析利用者の利用が多い。

今後は、利用者、医療機関、交通業者と協議しながら、透析専門の交通体系を研究しながら進めたい。

問 取り組んでいる新公共交通について進捗状況と今後の計画は。

答 岡﨑協働推進課長 この事業は通称「あいあい自動車」と言い、新山地区活性化推進協議会が取り組んでいる。

事業認可に伴う協議の中で提案のあった、地域の交通手段に関する実態調査を11月に行った。

この調査結果を踏まえ関係団体との協議を進める。

介護認定の遅延

問 介護保険の認定結果が出るまでに時間がかかり過ぎている。また、認定までに30日以上かかる場合には本人に理由を報告する義務があるが対応は。

早い認定を待っている人がいる

答 福祉課長 申請が集中する時期に認定が遅れ、その遅れが次の認定に影響を及ぼしている。

原因としては本人の受診のタイミング、主治医意見書の遅延、調査日程の不調など色々な要因がある。

本来行う必要があるが、申請者への遅延理由通知は現在行っていない。

町としてもこの状況に大きな問題意識を持っており、現在、介護認定の遅延により町民サービスが低下しないための検討を進める中、遅延解消の打開策として、町独自による認定審査会を立ち上げる方向で研究を進めたい。

町独自の認定審査会設置で、遅延理由通知の報告問題についても併せて解消されるものと思われる。

問 農地荒廃と農機具購入助成

答 農地集積と国県事業の導入

丸山　節夫

問 町では、農業生産者の高齢化や後継者不足により多くの遊休地が目立ち、この状況はさらに厳しくなると予測される。

荒廃農地の発生防止や解消施策、再生利用への取り組みを尋ねる。

また、農地の遊休化防止策としての農業機械購入助成を行い、農業従事者の確保や農業生産意欲の向上につながる施策の構築が必要であると考えるが、町長に尋ねる。

答 山本町長 町の農業の現状は、農家数1783戸、耕地面積2720ha、耕作放棄地387haとなっている。

町内には、小規模農家が多く、担い手不足や高齢化に伴う遊休農地の増加、農地の集約化が停滞している。

今後とも、担い手や農地集積を推進し、生産規模の拡大、産地ブランド化などの魅力ある農業基盤を目指す。

農機具購入助成は、国県事業に予算を確保し執行している。

なお、県事業では、対象者が認定農業者や集落営農組織に限られるため、地元農業者に向けた促進を行う。

大型機械で省力化を

県道町道の整備

問 主要地方道高梁・御津線の見通しの悪い個所や、幅員狭小、歩道の未設置などの未整備区間内において、一般の通行や通学路としての安全機能を損ない、支障をきたす危険個所が存在している。

また、町道では、緊急車両通行時の障害個所の解消が求められている。

町県道に係る現状及び今後の方針を尋ねる。

答 町長 本年度は、主要地方道高梁・御津線の道路改良要望として、フジパン誘致に伴う加茂市場から田土区間を申請している。

町道での、緊急車両通行時の障害個所の早期解消については、町過疎地域自立促進計画を進めており、今年度は、5路線に着手している。今後とも、早期の改良に向けて取り組んでいく。

町の産業・観光振興

問 町民が、地域で暮らし、安心した生活を維持・確保し町の活性化を図るための産業振興施策、また、町の特性を活かした観光振興策について尋ねる。

①町内小規模事業者に対する総合的支援策及び商工会との連携

②わが町ならではの魅力ある地域資源を活かした観光商品開発・情報発信・誘客促進策及びツーリズムを活用した地域間交流策

答 町長 小規模事業者に対する支援策として、中小商業活性化推進事業補助金（ポイントカード）、中小企業活性化資金利子補給金事業、住宅リフォーム事業費補助金を行っている。

創業支援では、商工会と連携し、創業相談窓口の設置や、創業のために必要な事項を学ぶ創業塾を開設している。

答 岡﨑協働推進課長 町には、加茂大祭、重森三玲の庭園を始め多くの文化財、豊な自然がある。

これらを観光資源として、交流人口増加を目指してきた。

町は、滞在型の観光振興へのシフトを目指しており、グリーンツーリズムは町を体感していただくための得策と考える。

問 どんな子育て環境を作るのか

答 地域で子育て　自然のなかで

山崎　誠

問 町は7月1日、子育て応援宣言を行い子育ての環境整備に力を注ぐことを表明した。「宣言」では、子どもは町の宝・社会の宝・未来の力と謳っており、健やかに育てる環境づくりを進めているが、いくつかの懸念があり尋ねる。

健やかに育てる環境とはどのような内容をいうのか。

答 山本町長 経済的負担の軽減、子育て支援サービスなども重要だが、各家庭や近所など地域ぐるみで子育てを支える気風づくりが大変重要と思う。地域によって条件が違い、それを加味して適確にニーズを把握したい。

準備が進む子ども広場

問 三つ子の魂百までといわれるように、元気な体と豊かな情操は幼児期が特に大切である。室内のスマホゲームなどではなく、鬼ごっこや缶けりなど自然の中で集団的な遊びが体や心の形成に大事ではないか。

答 町長 自然の中で、心、頭、体全部を使っていきいき遊ぶことが土台をしっかり作ると思っている。

問 食育も大切である。28年度、食育関連の新しい予算もついているが、栄養上の視点だけでなく、糖類や食品添加物の幼児に与える影響にもっと注意を払う必要がある。

答 片山子育て推進課長 食育は親子食育教室など機会を作って実施している。

食品添加物は多くの食材、加工食品に使用されており、食品表示をしっかり確認し使っていきたい。できるだけ手作り給食に努めたい。

問 地産地消を推進するため地元農産物を使い給食の充実を図るべきで、行政として農業生産・供給の仕組みづくりを考えバックアップしてはどうか。因みに現在、町内産の使用割合はどの程度か。

答 町長 町内産の使用を進めたい。町内での農業生産・供給態勢は商工会にも投げかけてみたい。

答 子育て推進課長 簡易的に1園のみについて調査した。その園では県内産、町内産合わせて63％。町内産は20％である。

問 きびプラザ2階に計画している施設は、「子ども広場」、「子育て広場」と呼び方が混在している。統一すべきである。

計画では屋内施設のみだが、隣接の中央公園プレイランドと直結通路を設け、屋外での遊びも自由にできるマルチ型にして広範なニーズに応えてはどうか。

答 町長 計画している「子ども広場」の充実をまず進める。自然の中での遊びは当然必要なので、県が管理しているプレイランドも活用したい。

答 子育て推進課長 呼称は今後整理していきたい。

※そのほか、町内に生息する希少動植物保護のため、全町のマップ作りについても質問した。

問 高齢者の閉じこもり対策を

答 交通体系の確立に努めている

日名　義人

問 9月の町議選時に寄せられた町民要求、とりわけ高齢者の声をもとに質問する。

声の背景に「国は医療、介護関連予算が毎年1兆円自然増、政府の対応は専らサービス切捨てと国民、自治体への負担増」の政策があると思えてくる。

その声とは、「シニアカー、手押し車に頼る門坂、凸凹道の上り下りが怖い、転んで怪我した人も」「マイカー運転も怖くなり、免許証返上、町のデマンド、ふれあいタクシー等の移送サービスは助かるが、利用し難さもあり、閉じこもりがちになる」

こうした声は、まさに福祉の切捨てのしわ寄せか。

そこで、行政の事故の実態把握は。また、環境整備と交通網対策の現状は。

答 山本町長 本町は公共交通が不十分でマイカーに頼っているのが現実、事故の件数は把握してない。自治組織再編で地域の緊密化、情報の集約化が期待される。

本町は車なしでは生活できないところであり、人と人の交流のためにも、基幹となる交通体系の確立に取り組んでいく。

安全に乗れる環境を

答 河内建設課長 生活道改修、申請には現地調査から応じる。本格改修には「一円舗装」が適切だが、申請件数残が725路線あり早急な対応は難しい。材料支給の制度もあるので利用してほしい。

問 新山地区で計画中の「交通対策への取り組み」では、「町の交通対策事業」の欠点克服が期待されるが。

答 岡崎協働推進課長 地域主体の取り組み故に、地域ニーズや事情が生かされた物の実現が期待される。地域おこし協力隊員の参加協力もあり、期待されるところだ。

問 交通体系確立には民間業者の役割も大きいが。

答 町長 交通空白地域対策が目的であり、町実施の交通対策事業も見直しの時期に来ている。民間業者の理解を得ながら本格的な交通体系を確立したい。

問 日本の水道は整備から数十年経過しており、全国で老朽化が政治課題になっている。

国は「水道代を充てに」の方針だが、本町の政策方針と必要財政規模は。

また、少人数でてんてこ舞の水道課の体制強化も急がれるのでは。

答 沼田水道課長 本町の水道管敷設は500㎞、改修にはおおよそ150億円は必要である。毎年1億円だと150年かかる計算になる。

水道会計は独立採算制で受益者負担の上、緊急を要する箇所から計画的改修と思っている。

問 農業の活性化のための担い手（新規就農）への支援策は、ピオーネだけでなく他の作物の栽培への拡大希望を聞く。その中で農業公社の役割が望まれているが。

答 町長 トータルサポート事業はピオーネ以外も対象になる。新規就農者への対策だけでなく、他品目作物栽培も地域農業にとって大切である。研修受け入れ農家の発掘など行政の役割を果たしていきたい。

問 介護保険料の高い要因は

答 介護給付費で保険料も上がる

熱田　康治

問 町長は一期4年間では、前町政からの引き継ぎであった中学校統合について、予定通り加賀中学校を開校した。

そして心配していた4中学校跡地利用についても、3中学校は既に決まっており、残る1校についても交渉は順調に進んでいるように思われる。

一方では、町有地を利用してメガソーラー発電施設を設置して、町で管理運営をしている。また、ふるさと納税制度を利用した米づくり農家応援事業も、今年度すでに5億7000万円に達している。

全国的に町の名が知れたと思うし、米づくり農家にとっても久しぶりの明るいニュースになったと思う。

しかし、このことが町の人口減少の歯止めにはなっていないが、そこで次の質問をしたい。

①介護保険料

保険料は所得によって異なるが近隣自治体と比べ、年間で約1万5000円から5万5000円位高い、その要因と対策を尋ねる。

②水道料金

同じように年間では約9000円から3万円程度の差があるは。その要因と対策は。

介護保険料、水道料金とも大きな額ではないが、支払う人から見れば大きな負担だと思う。

答 山本町長

①介護保険料

町民負担を下げたい気持ちは充分持っているが、保険料の決定は介護保険法で定められた算定方式があるため、一般会計からの繰り入れは公費の12.5％以内となっている。そのため町民の介護サービス給付費が上がれば保険料も上がるのが現状である。

言い方を変えれば介護サービスが比較的充実しており、サービスを受けやすい面もある。現在サービスを受けている人に制限はできないが、高齢者や要支援者が要介護者にならないための処置が必要だ。そのためには地域間のつながりを深め、社会参加する人が増えることが介護予防につながると思う。一人でできないことを助け合い、機能低下の予防、維持回復につながる仕組みづくりをしたい。

時間はかかると思うが、モデル的な地域の支援から始め、広範囲な地域へ広めていきたい。また、健康寿命の維持も大切なことであり、いきいきサロン、3人でウォーキング、ラジオ体操などに積極的に取り組んでいただきたい。地域で知恵を出して取り組んでいただければそのための支援は充分行っていきたい。

②水道料金

水道料金の算定は、運営に必要な経費は水道料金を充て、独立採算性が基本となっている。取水ダム、配管施設などの工事費が多く掛かり、使用料金では賄えないので一般会計から繰り出している。負担をかけるがご理解をいただきたい。

今後とも一層安心安全な水道水の供給に努めたい。

きれいなお水ね

委員会の動き

総務産業常任委員会

今議会より委員会の構成が変わり、新人議員も誕生したことを受け、所管の各課の事業等の進捗状況をより詳しく知ることが求められ、午前中、所管の課長から説明を受け、午後より現地踏査を行った。

まず太陽光発電施設（岨谷4号と5号）を見学した。

太陽光発電は、合計5ヵ所に設置しており、4月から10月までの売電額は、1億4000万円である。

次にエコセンターを視察。この施設は、27年度にエコハース方式からホールローダーによる手動式に切り替え、単価の軽減を図ったが、熟成発酵に時間を要すことが今後の課題とされている。

次に、吉川のラウンドアバウト交差点予定地の説明を受け、さらに町道金川線の改良工事現場を視察した。

この町道の完成は3年後の開通を予定している。

また、中学校統合による吉川から下竹荘にかけての428号の改良工事がほぼ予定通り行われていた。加茂市場のフジパン工場にかかる架橋工事も急ピッチで進んでいる。

進む架橋工事

最後に、旧ストックファーム跡地を視察した。この跡地については三つの事業が進行している。

①乗馬クラブによる、メンタルヘルス構想で、屋内馬場などが建設されている。②ピオーネ園も計画通り進められている。③植物園は予定通り事業を実施されているが、観光施設でもある休憩所が必要との感を受けた。

民生教育常任委員会

新構成の最初の委員会を11月16日開会。所管各課の①28年度の主な事業と予算。②執行状況、③課題、④これからの主な事業について調査した。

▼教育委員会 下竹荘公民館に開設された公営学習塾に1600万円。塾運営には、地域おこし協力隊4人を充てている。現在、中学3年生42人が在籍。週2回数学と英語を中心に学習。

高校学区の問題は「県高校教育研究協議会」が11月15日中間報告をまとめ、吉備中央町の実情を踏まえ早期に対応と明記された。

▼福祉課 社会福祉、障害者福祉、介護支援、地域包括支援センターに編成し、福祉業務を分担している。高齢化が進む中で、介護は大きな課題。地域での介護に重点が移っていく。介護保険特別会計は20億円を越え、保険料の負担が重くなっている。

▼保健課 病気にかかる前の予防や早期検診が大切で、早めにがん検診や予防接種を実施している。

国民健康保険の加入者は約3000人で、65歳以上の割合は60.3％と高く、一人当たりの医療費は35万8000円と年々増加している。現在、市町村が運営している国保は、30年度から都道府県が財政運営の責任主体となる。

▼住民課 戸籍住民班と環境班で業務にあたっている。戸籍関係以外では、防犯灯の新設・修理補助に300万円。交通支障木除去補助に400万円。

ごみ処理は1億5600万円で、内訳は高梁地域事務組合の塵芥処理負担金1億円、民間業者に委託しているごみ収集に4900万円、し尿処理に4600万円で環境保全に努めている。

▼子育て推進課 28年度、2つの大きな施設整備は、「幼保連携型認定こども園」と「子ども広場」である。

「認定こども園」は吉備高原幼稚園南側空き地に3歳未満児30人の保育施設を増設する。「子ども広場」はきびプラザ2階の空きスペースを利用。391㎡を整備し、町内外からの交流人口を増やし、地域拠点の機能を強化する。開園は29年4月を予定。

認定子ども園建設予定地

▼請願、陳情を審査

12月8日、本会議で付託された請願1件、陳情1件を審査した。2件とも全員一致で採択とした。

旧ストックファーム周辺の事業紹介

かつて町の公共育成牧場として町内外の皆さんが牛と親しんでいた「ストックファーム」は平成22年度に閉鎖となり、その後、様々な事業政策や民間事業者らの手により、大きく生まれ変わろうとしている。

周辺では①きびの森植物園（約500種類の自生植物公園）②アストロコテージガリレオ（町営による天体観測ができる体験宿泊施設）③岡山乗馬倶楽部④ブドウのメガ団地などが整備されている。

その中で主な事業を紹介する。

サンクスホース・プロジェクト

町が取り組む「ふるさと納税事業」は現在、大きく分けて3つの事業に分けられる。

1番目の事業は町内の活性化を支援する「22世紀の理想郷づくり事業」

2番目の事業がふるさと米の買い上げで農家を応援する「米作り農家応援事業」さらに、平成28年7月から3番目の事業として「サンクスホースプロジェクト事業」が始まった。

この事業は、競走馬を引退したサラブレッドを再調教することにより、馬のセカンドキャリアを支援するもので、主な賛同者にはJRA騎手で有名な武豊氏、福永祐一氏なども名を連ねており、町と協定を結んだNPO法人サラブリトレーニングが、㈱岡山乗馬倶楽部に調教を委託して行っている。

再調教で生涯現役

なお、この事業に係る経費の全ては、この事業の趣旨に賛同した全国の競馬ファンや馬の愛好家の皆さんからサンクスホースプロジェクト事業に対して寄せられた寄付金のみで運営される。

他の2つのふるさと納税事業からの支援及び町からの財政支援はない。

この事業により、自然豊かな吉備中央町で、のびのびと再調教を終えた馬たちは、全国の乗馬クラブなどに引き取られ、乗馬やセラピー馬として新たな活躍の場を開いている。

岡山ハイブリッドメガ生産団地構想推進事業

この事業は岡山県を代表する果物のブドウに対する産地競争力強化を図るもので、現在、生産現場においては高齢化や、後継者不足などにより供給体制の弱体化が進んでいる。

このため、既存の農地や農業施設の有効活用を図りながら、農産物の安定的供給体制の整備のほか、新たな担い手の確保育成、新技術・新品種の研究開発機能等を併せもつハイブリッドメガ生産団地の整備を行う事業。

平成28年度は主にブドウ棚の整備、平成29年度においてブドウ棚整備と併せて、選果場の整備を行う予定である。

美味しいブドウ作りを目指して

追跡

あの時の質問 どねんなっとる？

過去の一般質問の追跡調査を行い、進捗状況・結果を報告する。（平成25年３月定例会の質問）

いつも綺麗に使いましょう

Q 質　問

国道、県道、広域農道の法面管理は一部しかできていないが対応はどうするのか。

A 答　弁

町では交通支障となっている法面の草刈りや木の伐採は、交通に支障のある一部の箇所しか対応できていないのが実情。国県道も同様である。

その後（建設課）

現在も、決定的な解決策はない。しかし、特に危険性が高く緊急性を求められる箇所については、県も町も対応を実施している。なお、広域農道の一部では法面へのコンクリート保護により雑草防止を図っており、今後も推進していきたい。

雑草防止で草刈り軽減

Q 質　問

指定管理施設の施設修繕はどのようになっているのか。

A 答　弁

公の指定としての目的も考慮し総合的に的確に判断する。修繕については町と管理者で協議を行い、適正に実施している。

その後（総務課）

それぞれの施設において担当課と協議をしながら対応をしており、総合的には総務課が全体統括を行い公平な条件で修繕を行っている。

シリーズ なんと読むのかな No.4

八幡淵（はちまんぶち）

昔、八幡と言う名の侍が小森城の山頂近くの腹切岩に畳を敷いて切腹し、体勢が崩れたはずみで麓まで滑り落ちた。その滑り落ちた豊岡川の対岸の淵を八幡淵と言うそうです。

新見（にいみ）

宮地の中ノ谷と南谷に囲まれた小山は古城らしく、土塁の跡や屋敷跡がある。この城の城主は新見という姓らしく、一家の墓と思われる墓が下の台地にある。

ある時、城を捨てて逃げたが、その際に墓を守る者に新見と名乗ることを許すと言い、この地を新見と言われるようになったそうです。

大師山（だいしやま）

昔、弘法大師が千谷寺を築くために、美しい森が多いと聞き付けて小森にやって来た。小森の者は喜び、小森の森で一番高い山に案内すると、弘法大師は谷を数え九百九十九しかないので千谷寺を築くのをやめたと伝えられている。大師の登った山を大師山と呼び、近くの集落を大師と呼ばれている。

読みにくい地名

- **大砂**（おおさこ）
- **水砂**（みざこ）
- **高下**（こうげ）
- **寺阪**（てらざこ）
- **竹屶**（たけだわ）
- **馬越**（まごし）
- **高祖**（たかぞう）
- **上鏡**（じょうきょう）
- **行寄**（いくより）
- **金久曽**（かなくそ）

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年の9月町議会議員選挙があり、新たな議会構成も決まり12月定例議会を終えました。広報委員会では新人議員の加入で、新たな紙面と企画で読みやすい広報へと頑張ってまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本年も良き年で有りますように皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

（森下誠一）